



長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき、高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことにより、社会に貢献します。

【発行】

一般財団法人長寿会

小田原市入生田 475

TEL. 0465-24-0002(代)

編集 / 広報委員会

和敬清寂

入居者
伊澤芳江



私が長寿園に入居したのは二〇一三年なので、六六年になります。古い友人が長寿園に入居される時に色々とお手伝いをして、入居後は何度か友人を訪ねて長寿園に来ましたが、私が入居しようとは思っていませんでした。

私は三姉妹の二番目で、大正一五年八月生まれです。今年で九三歳になりました。姉と妹とは三つ違いになります。

二六歳の時結婚をしました。子供はいなく、主人は六〇歳で他界しました。主人との思い出と言えば、スキーでしょうか。スキー未経験の私と一緒に初

心者コースへは行きませんでした。

当時スキーをするとなると、スキー道具一式を背負って夜行列車に乗って民宿に泊まる。貸スキーがあったり、事前に荷物を送っておくことはできませんでした。お風呂のお湯が熱くて「熱い」と言うと、その辺の雪を入れて下さいと言われる時代。今では考えられません。

入居を考えるようになったのは、二〇一一年の東日本大震災をきっかけに、一人暮らしの心細さや、姉妹たちには迷惑をかけたくないと思い、元気なうちに入居することを決めました。

長寿園については、友人の案内で見学していたので様子は知っていました。また、友人の甥

御様が長寿園の事を良く調べた上で、「ここなら安心」と友人の入居にも至っていたので、入居するなら「長寿園」と決めていました。ですから、説明を聞きに行った際、その場で入居を決めてしまい驚かれました。

入居のきっかけとなった友人は、私よりも二つ三つ年下で、女学校卒業後、横浜の図書館で働いていた時に知り合いました。お互い結婚してからは、仕事と家庭とで忙しい毎日を通していたので、人生の節目で連絡を取り合う間柄でした。

その友人も私が入居した時には私の事がわからない状態になっており、その二年後に亡くられました。

入居してお茶室があることに気付き、少々驚きました。友人に案内された際には、お茶室の事は聞かされていなかったからです。長寿園の創立六〇周年の際にお茶の道具を寄付して立礼を行うようになりました。

私がお茶を始めたのは四〇代の頃で、

【次ページへ】

四ツ谷の学校で働いていた時に、出入りしていた洋服屋さんで誘われたのがきっかけでした。今でもお茶が楽しみで、偶然にも一〇歳若い同朋が、小田原に住んでいる娘さんの所に、お茶を教えに来ることがあるので、その際、一緒に楽しんでいます。

私はお茶一筋で宗匠の免状を戴いてからも、自分が楽しむだけで、生徒をとって教えたことは全くありません。

耐震工事後は、お茶室も全面改装され、お軸、お茶花、お菓子等を用意して、毎月一回お茶会を開いております。お菓子は重菓子と干菓子の両方を用意しています。干菓子については、季節に合わせて型抜きを選び、毎回私が二種類ほど用意するようにしています。

お水屋も立ったまま使える長寿圍仕様ですので、炉や風炉といった流儀などにはこだわらず、お点前のできる方々はお茶を点てて皆様と楽しんでおります。

サンナナ引退記念イベントと、その後 - 入生田でサンナナ送る熱いファン -

入居者 小池怜子

サンナナとは、百年近く箱根の山を独特なうなり音を上げ登り続け、この愛称で親しまれた旧式の吊り掛け駆動方式の車両です。今年、7月20日、入生田車庫で引退記念イベントがあり、ファン大勢に見送られて引退しました。

この日偶然、イベントに出くわした私ですが、この熱心な鉄道ファン達に感動しました。かなり遠方から引退する車両を見送りに来た若者達、鉄道オタク、テッチャン等と呼ばれ日本の平和を象徴する様な光景です。私に熱心に説明する若者も居て、びっくりしました。子供の頃、家族旅行で箱根の保養所へ来た時、スイッチバックの説明を聞きましたが、引退にこれ程のファンの姿を見るとは驚きました。

なお、この車両は鈴廣さんが引き取り、深夜運ばれて「えれんなごっそ」の店頭へ展示されました。車外も車内も喫茶室となったと知って、早速行ってみました。大きなバイクで来た青年が写真を撮っていました。飲み物を注文、車内へ座ると意外にも小さな車両である事に気がきました。駅伝の頃は又大勢のファンが取り囲む事でしょう。



短歌

鍵盤をひたすら打ちてわが孫が

「悲愴」弾きをり舞台の上に

鈴木 芳子

観光の人となりきて故郷の兼六園の由来を聞くも

連日の猛暑今宵は夏祭り屋上冷やす職員の労

田川 富子

サンナナの引退惜しむファンの群れ

小池 怜子

入生田車庫は暫し花形

長寿園の日々

8月10日 夏祭り
 9月8日 ピアノ演奏会
 11日～17日 敬老週間



夏祭り

私は雑技団をする事になり、約20年ぶりに一輪車に乗りました。当日上手くいかない部分も多くありましたが、ご入居者の方から「みんなとても上手だった！違った一面が見ることができて、とても楽しかった！」と大変嬉しいお言葉を頂きました。これからもご入居者の皆様が笑顔で過ごせるように努力して参ります。
 生活課 笠井由加梨

初めて夏祭り実行委員としての参加でしたが、ご入居者の皆様より「楽しかったよ」とお声を掛けていただき、とてもうれしかったです。来年も皆様と楽しい時間を過ごせるよう努めてまいります。生活課 中島ありさ



クラブ活動発表会

歌を楽しむ夕べ



敬老祝賀式典

食事会

アトラクション

ちよつと旅気分

「板橋地藏尊大祭」

広報委員会 中島あけみ

地元で「お地藏さん」

と親しまれる祭りが毎年

一月と八月に行われま

す。板橋地藏尊は弘法大

師ご彫像が尊ばれ、昔は

旅人が旅の無事を願う東海道五十

三次の一大霊場として賑わったそ

うです。また、この大祭に詣でる

と無くなった身内の人と瓜二つの

顔の人に会えるとも言われていま

す。

今回、私も十数年ぶりに参加し

ました。長寿園からは午後一時の

マイクロボスで板橋下車。旧道へ

入ると露店が並びます。露店を横

目に境内に上がると浅草寺を思わ

せる線香の煙の中、参詣者があと

をたちません。是非一度でかけら

れてみてはいかがですか。

板橋地藏尊大祭

毎年 一月二三日

八月二三日



「作品は人生の集大成。こんな難しい物、今は編めません。ひとつひとつの作品が思い出に残っています」

敬老週間作品展《作品介绍》

「編んでいる時は時間を考えずに夜遅くまで編んでいました。着ていただく方に合わない場所は編み直しをしたりもしました。」



堀田シメノ様

「長寿園入居前にカメラの撮影会があり撮影しました。シャボン液がアクリル板に撒かれていて下からライトを当て撮影しました。良い思い出です。」



中村典子様



小澤フジ子様

編集後記

箱根からオリンピックへ！これが現実となる。男子マラソン代表3枠の内、2名が内定。東京五輪で箱根路の雄姿が疾走する。世界の舞台で更なる飛躍を期待するところである。改めて感じる。向上心って大事ですよ！

川柳

この部屋へ何しに来たかもう忘れ間に合うかまだ詠めてない辞世の句

松本 正子

通院も年々辛くなる齡

田中 和子

ベランダで見る房総の岬の灯

青木 千代

降るような星を眺めている至福

降りだした雨へ腰痛すぐ忘れ

小池 怜子

片付けの振りをしてる捜し物

試したらもう戻れない軍事力

田川 富子

願い事多過ぎたのか笹が折れ

ハンドルは優し送迎バス和む